



令和 5 年 3 月

米沢市文化財年報 No.35

米沢市教育委員会



▲戸塚山 137 号墳出土人骨と復元された女性首長

昭和 57 年（1982）、米沢市教育委員会は古墳時代の中頃に築造されたと考えられる戸塚山 137 号墳の発掘調査を実施しました。調査により石組みの埋葬施設が発見され、棺内から 1 体の人骨が出土し、身長 143 ～ 145cm、40 歳前後の女性であることがわかりました。

その後、平成 29 年に福島県喜多方市灰塚山古墳の調査で発見された男性人骨との比較研究のために分析試料を提供したところ、極めて良好な DNA が抽出されました。人骨の残存状態も良く、埋葬された人物像を詳細に復元できる可能性が高いことがわかりました。

今年度、様々な研究機関の協力を得て核 DNA 解析や復顔などを行い、戸塚山 137 号墳に埋葬された「置賜の女王」の姿を CG で復元しました。最先端の技術や調査研究によって、発掘当時ではわからなかった多くの新知見を得ることができました。

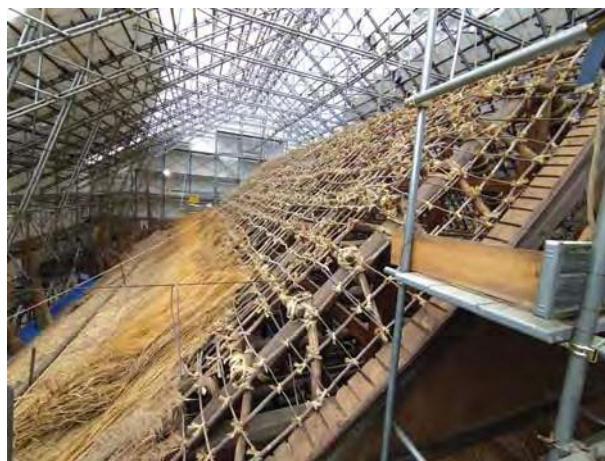
一般文化財事業

一般文化財事業では、今年度も国庫補助事業をはじめとして多岐にわたる事業に取り組みました。以下、特に重点を置いた事業について紹介します。

【国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡（普門院本堂）保存修理事業】

上杉治憲敬師郊迎跡は米沢藩を復興させた名君として知られる上杉治憲（鷹山）が師の細井平洲を郊迎した地として、昭和10年に国の史跡となりました。

今年度は普門院本堂工事の4年目で、木工事、屋根工事のほか、昨年度行った設計をもとに耐震補強工事を行いました。また、関係者に向けた保存修理工事の現場公開など、徐々にではありますが公開や歴史学習の場の提供を行っています。



▲保存修理工事が進む普門院本堂

【文化財の修理】

昨年度からの継続事業として、上杉神社所蔵の国重要文化財「服飾類」の修理を実施しています。豊臣秀吉から拝領したと伝わる上杉神社所蔵の「鍬（城州埋忠作）」は修理が完了し、上杉神社稽照殿にて特別展示が実施されました。それに合わせて上杉神社主催のワークショップ・シンポジウムも開催され、実際に修理に携わった技術者の方による説明と実演、そして鞆作り・砥ぎの体験が行われるなど、多くの方に保存修理の状況を知っていただくことができました。



▲ワークショップ実施風景

【文化財調査】

昨年度に続き国登録文化財の候補として小嶋総本店の調査を実施しました。また、成島八幡宮の調査等、市内文化財の概要把握のための調査を実施しており、価値や位置づけを把握することで指定文化財の諮問へと繋げていきます。

さらには文化庁による上杉神社稽照殿での重要文化財調査等、文化財の状態を確認する調査も随時行われています。

文化財保護行政の中でも文化財調査は重要であり、今後も文化財指定や修理事業などにつなげられるよう計画的に行っていきます。



▲成島八幡宮での文化財調査風景

【米沢工業高等学校によるドローン撮影】

昨年度に引き続き、山形県立米沢工業高等学校建設環境類の生徒の協力をいただき、授業の一環として指定等の文化財建造物や史跡のドローン撮影を 5 箇所で実施しました。普段見ることのできない高さ、角度での撮影によって文化財の現状を知ることができ、また高校生にとっても市内の文化財を知ってもらう機会になっています。なお、撮影した画像は米沢市公式ホームページで随時公開しています。



▲萬世大路（栗子隧道）でのドローン撮影

【上杉文書調査事業】

上杉文書は昭和 29 年に上杉家から米沢市に寄贈された史料群で、現在は米沢市上杉博物館の特別収蔵庫に収納されています。

今年度の調査は 5 カ年計画の 2 年目で、昨年度から行っている、古文書の内容や状態、装訂などについての調査に加え、絵図の調査も実施しました。古文書の調査にはない、彩色や方位書、縮尺などの有無も調べています。史料調査の様子や進捗状況は、上杉博物館のホームページを通じて発信しています。



▲絵図の調査風景

【未来へ伝える山形の宝事業】

ささの里づくり推進協議会により、笹野観音堂・西国三十三観音を中心とした地域づくりが行われています。

今年度は「笹野観音堂茅葺ワークショップ&講演会」として、茅葺職人による笹野観音堂の茅葺の実演と解説付きの見学会、茅葺屋根の材料作りワークショップ、「米沢藩の作事組織」と題した講演会を行いました。実際の文化財修理に触れてもらい、文化財保護への興味と理解を深めていただく場となりました。



▲山形大学工学部永井康雄先生による講演会風景

令和 4 年度は、前年度に続き新型コロナウイルスの影響を考えながらの事業実施となりました。民俗芸能や文化財関係のイベントが中止となるなど、まだまだ状況は改善されていませんが、そのような中でもシンポジウムやワークショップの開催など、少しずつですが改善へ向けた動きもあります。

上記の他、継続事業として市指定史跡直江石堤の草刈・雑木除去や国・県指定文化財への管理補助事業、民俗文化財への支援などを実施しています。今後とも文化財保護へのご理解とご協力を、よろしくお願いします。

埋蔵文化財事業

今年度の埋蔵文化財関連事業については、館山城跡の発掘調査に加え、民間の開発に伴う発掘調査が令和3年度からの継続調査を含めて2件ありました。また、館山城跡や戸塚山古墳群等の史跡案内、博物館への遺物の貸出や埋蔵文化財資料室の見学といった活用事業にも努めました。以下、主な事業について紹介します。

【市内遺跡発掘調査事業】

埋蔵文化財に関する発掘届及び分布調査の依頼件数は、令和5年2月28日現在45件で、このうち、試掘・確認調査は22件、現地踏査等は23件でした。このうち令和3年度からの継続調査を含む2件で緊急発掘調査を実施しました。

【^{だい の うえ}台ノ上遺跡の発掘調査（第16・17次）】

個人住宅建築工事に伴い、台ノ上遺跡の緊急発掘調査を2件実施しました。本遺跡で発掘調査が行われるのは、平成17年以来17年ぶりです。第16次調査では遺物包含層や土坑から多数の縄文時代中期の土器や石器などが出土しました。第17次調査では、入口より底の面積が広いフラスコ状土坑が11基発見されており、食料を貯蔵した場と考えられます。



▲ 16次調査区全景（北から）



▲ 16次土坑断面（北から）



▲ 16次遺物出土状況（東から）



▲ 17次調査区全景（東から）



▲ 17次フラスコ状土坑（北から）



▲ 17次遺物出土状況（北から）

【分布調査（新発見の山城）】

^{さぎじょう}鷺城史跡保存会会員からの情報提供により、小野川町・築沢地内で新たな山城を確認しました。7方向から延びる尾根を^{きりぎし}切岸や^{ほりきり}堀切で切断した部分を曲輪としており、規模は東西約180m、南北約140mです。虎口や堀切が明瞭に確認でき、^{うねじょうたてぼり}畝状堅堀の可能性もある痕跡も観察されます。

今後、地名を採って「^{たてのやまたあと}館ノ山館跡」として登録する予定です。



▲ 館ノ山館跡の虎口（東から）

【国指定史跡館山城跡の確認調査】

今年度は曲輪Ⅱ・Ⅲ間堀切の規模と曲輪Ⅲにある塚状遺構の時期や性格を確認する調査を実施しました。堀切の調査では北端を確認し、全長は約 88m であることがわかりました。塚状遺構の調査では多量の碎石（泥岩）を含む土層が確認されました。泥岩は現地表から深い地層に存在しており、検討の結果、塚状遺構は大正 8 年（1919）に建設された館山発電所の導水路工事で発生した残土山と結論付けました。



▲堀切の北端確認状況（南から）



▲塚状遺構の現況全景（北から）



▲碎石の検出状況（北西から）

【戸塚山古墳群の整理作業】

平成 20 ～ 28 年度にかけて発掘調査を実施した、戸塚山古墳群の整理作業を実施しました。この調査は、戸塚山古墳群の保存と活用を目的とし、将来の国の史跡指定を視野に入れた確認調査を行ってきたものです。諸般の事情から、平成 28 年度を最後に調査は中断していましたが、令和 5 年度に、これまでの調査成果を報告する発掘調査報告書の刊行を予定しています。



▲戸塚山古墳群の整理作業風景

【埋蔵文化財の活用】

令和 4 年度は、山形県立博物館、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館、寒河江市美術館へ遺物の貸出を行い、これらの機会を通じて本市の文化財を多くの方々に見ていただくことができました。また、戸塚山 137 号墳から出土した女性人骨を復元したパネルを作成し、戸塚山の地元・上郷地区の文化祭で特設ブースを設け、パネルや戸塚山古墳群出土遺物の展示を行いました。

埋蔵文化財資料室は、地元の米沢女子短期大学の授業や、一般の方々の見学で利用していただきました。加えて、埋蔵文化財や考古学に関する専門家による資料調査にも協力しました。

今年度は、中学生の職場体験（米沢チャレンジウィーク）として米沢市立第七中学校の生徒を受け入れ、平板測量や拓本、遺物写真撮影といった埋蔵文化財に関する仕事を体験してもらいました。



▲上郷地区文化祭での展示風景



▲職場体験風景（拓本実習）



▲埋蔵文化財資料室の見学

《第 11 回 文化財事業特集：戸塚山古墳群と戸塚山 137 号墳》

戸塚山古墳群は、本格的な発掘調査の開始から令和 4 年度で 40 年を迎えました。その節目の年に、本市教育委員会では、戸塚山 137 号墳から出土した女性の人骨を、最新の科学の力を用いて復元・分析を試み、CG を作成しました。

戸塚山古墳群とは

戸塚山古墳群は、米沢市北東部に位置する、標高 356.6m の「戸塚山」一帯に分布する古墳群の総称です。古墳群は、分布域から山頂・山崎・金ヶ崎・飯塚北・飯塚南・森合東・森合西・堤入 A・堤入 B・堤入 C・小山 A・小山 B の各支群に分けられ、その総数は確認されているだけで 200 基を超え、山形県では最大規模の古墳群として知られています。



▲戸塚山古墳群全体図



▲戸塚山遠景



▲山頂支群遠景

古墳群が造られた年代は、古墳の主体部（遺骸を納める場所）の構造の違いから、大きく二時期に分けられることが確認されています。一つ目は、5・6 世紀代に造られ、竪穴系の主体部を持つ山頂・山崎の各支群、二つ目は、7・8 世紀代に造られ、横穴式石室を主体部に持つ、直径 10m 前後の小円墳が密集して築造されている金ヶ崎・飯塚（北・南）・森合（東・西）・堤入（A～C）・小山（A・B）の各支群です。なお、一つ目のグループと二つ目のグループでは、古墳築造の時間的な継続性・連続性は見られず、古墳の築造は一旦途切れるものと思われます。

山頂支群について

山頂支群は、戸塚山の山頂から南東方向への尾根筋に築造されている支群です。全長 54m と、戸塚山古墳群で最大の古墳（前方後円墳）である 139 号墳を筆頭に、女性人骨が出土した 137 号墳（全長 24m。帆立貝式古墳）、138 号墳（全長 15m。造出付円墳）と続きます。これらのことから山頂支群は、他の支群と比較しても、古墳の規模・墳形といった様相がまったく異なることが見て取れます。以上から、古墳群で最大の 139 号墳は、当時米沢周辺を治めていた首長が眠る墓と考えることができます。

137 号墳の発掘調査

137 号墳は、昭和 57 年（1982）に米沢市教育委員会が地元の考古学団体「まんぎり会」の協力を得て発掘調査を実施しました。今年度（2022 年度）は発掘調査からちょうど 40 年の節目となります。

発掘調査は、墳丘上に東西 2.5m × 南北 6m のトレンチ（調査溝）を設定し、掘り下げていきました。その結果、墳丘下約 2.6m で、約 150cm × 50cm の組合式の箱形石棺が検出され、内部から人骨が比較的良好な遺存状態で出土しました。人骨は、獨協医科大学の研究チームにより鑑定が行われ、壮年期の女性であることが明らかとなりました。そのことから、当時はマスコミでも大きく取り上げられ、戸塚山古墳群は全国的に注目される遺跡となりました。



▲石棺検出状況



▲ 137 号墳調査風景

よみがえる「置賜の女王」

女性人骨の出土から 40 年。考古学、DNA 解析や安定同位体分析、人類学的分析・復顔、服飾の復元といった最新の科学の力を結集させ、5 世紀代に生きていた「置賜の女王」は CG として現代によみがえりました。そして、それらの調査・研究成果を披露するシンポジウムを 11 月 12・13 日に伝国の杜にて開催し、各分野の研究者から調査・研究成果を発表していただきました。



▲戸塚山 137 号墳シンポジウム風景

戸塚山古墳群の今後

今後は、今回の女性人骨の分析・復元成果やこれまでの発掘調査で得られた成果を、様々な機会で紹介・活用し、戸塚山古墳群が持つ地域的・学術的な重要性や普遍的な価値を広く伝えていくことが重要と考えます。

令和4年度 米沢市文化財関係事業

区 分	令和4年度の重点事項	令和4年度的主要事業内容
1. 文化財共通	○事業の記録 ○文化財に関する諮問機関の開催 ○文化財行政推進大会への参加 ○文化財の普及・教育 ○文化財保存活用地域計画の策定	・「米沢市文化財年報」No.35の発行 ・米沢市文化財保護審議会の開催 (第1回R4.9.16 第2回R5.3.20開催予定) ・市指定文化財の諮問(国綱・大南遺跡出土木製品類) ・全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会(酒田市)・山形県史跡整備市町村協議会(山形市)への参加 ・埋蔵文化財資料室・史跡等の見学対応・出前講座の実施 ・中学生の職場体験(米沢チャレンジウィーク)受け入れ ・文化財保存活用地域計画策定作業(未指定文化財の調査・現状把握)
2. 一般文化財	○文化財の調査 ○文化財の保存・活用 ○指定文化財保存管理の充実 ○指定文化財環境整備の促進 ○無形民俗文化財後継者の育成	・文化財及び指定等文化財候補の調査(小嶋総本店・成島八幡宮ほか) ・米沢工業高等学校との文化財建造物・史跡等ドローン撮影(館山城跡・戸塚山古墳群・笹野観音堂ほか) ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院本堂)保存修理事業(15年目、本堂工事の4年目) ・国指定文化財「服飾類(上杉謙信、景勝所用)」ほか保存修理事業(5ヵ年事業の4年目) ・上杉文書調査事業(5ヵ年事業の2年目) ・国指定文化財「行屋」の管理 ・国指定特別天然記念物「カモシカ」の保護 ・市指定天然記念物「ホタル」及び同「吾妻の白猿」の保護調査 ・文化財防火デー(法音寺) ・未来に伝える山形の宝事業への協力(芳泉町・笹野・万世地区) ・県指定天然記念物「山上の大クワ」の管理 ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡(普門院・羽黒神社)」及び同「米沢藩主上杉家墓所」管理に係る補助 ・県指定史跡「林泉寺米沢藩上杉家及び家臣団墓所」、県指定天然記念物「長町裏のエゾエノキ」管理に係る補助 ・国指定史跡「一ノ坂遺跡」、市指定史跡「戸塚山古墳群」、同「谷地河原堤防(直江石堤)」等の環境整備(草刈・雑木除去等の実施) ・県指定無形民俗文化財「梓山獅子踊」保存会への補助
3. 埋蔵文化財	○埋蔵文化財の調査 ○埋蔵文化財の情報収集及び周知 ○報告書の作成 ○埋蔵文化財の保存・活用	・国指定史跡「館山城跡」の範囲・内容確認調査 ・個人住宅建築に伴う台ノ上遺跡の緊急発掘調査(第16・17次調査) ・開発事業に伴う事前協議及び埋蔵文化財包蔵地における確認調査、分布調査 ・米沢市埋蔵文化財調査報告書第124集の刊行(市内遺跡) ・戸塚山古墳群範囲確認調査報告書作成にむけた整理作業 ・埋蔵文化財資料室・埋蔵文化財南原資料室の維持管理 ・戸塚山137号墳出土人骨核DNAデータ解析及び埋葬人物の復元CG作成、シンポジウムの開催

発行 米沢市教育委員会 教育管理課 社会教育文化課文化財担当

〒992-0012 米沢市金池三丁目1番14号

T E L : 0238-22-5111 (内線 7530、7531)

F A X : 0238-21-6020

E-mail : bunkazai-t@city.yonezawa.yamagata.jp